

---

# 小さな約束

仮眠

---

## 注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

### 【小説名】

小さな約束

### 【コード】

N7019D

### 【作者名】

仮眠

### 【あらすじ】

嫌な夢を見る・・・昔した馬鹿な約束・・・思い出す・・・恥ずかしすぎる約束を・・・

(前書き)

これは自分の書きたいことを思うがままに書いた駄文です。  
不快な思いをしたらごめんなさい。

後ジャンルの判断がいまいちできないので間違っていたらごめんなさい。

「ボクは、いつかヒーローになるんだ！」  
「ばつつかじゃないの？ヒーローなんているわけないでしょ！」  
「いないんだつたらボクが最初のヒーローになる！」  
「ヒーローは世界を救う者。あなた1人で世界なんて救えないでしょ？」

ボクは昔ヒーローに憧れていた。子供だつたら一度は考える事だろつ。

男になれば自然に忘れる夢…  
分かつてた。ヒーローになれない事ぐらい。  
気づいてた。ヒーローがいない事ぐらい。  
だからボクは誓つた。  
誓つてしまった。

「じゃあ、\*\*\*ちゃんだけのヒーローになるよ！\*\*\*ちゃんだけを救うヒーローに！」つと

「嫌な夢・・・見たなあ・・・」  
目覚めは、最悪だつた。  
今までの人生の中で最大の汚点。思い出したくも無い過去。唯一の人に見せた弱み。

何より、これからの人生に何らかの形で影響しそうな過去。もしもこれからの人生で\*\*\*に会う事があれば確実にパシリにされる事だろつ。それはもう戦隊ヒーローの敵の雑魚兵士のごとく・・・  
「俺も、もういい大人なだけどなあ・・・」  
ため息をつきながら伸びをする。

プルルル…プルルル…

着信 マネージャー

時間確認 7時半

「おはようございます。まだ時間じゃ無いんじゃないんですか？」

「おはよう。起こしちゃった？」

「いえ、今起きたところです」

「そう、良かった」

そう言いながら微かに笑う。

「で、どうしたんですか？」

「ああ、そうそう。今日はちょっと早く迎えに行くから」

「早く？何ですか？」

「そ・れ・は、その時のお・た・の・し・み」

「分かりました。で、いつ迎えに来るんですか？」

「んもお、つれないわねえ。え〜とお、最初の時間が10時だったんだからあ……」

1時間前になつたんだからあ。うん9時ね。9時に迎えに行くわ」

「分かりました。9時ですね」

「うん。9時ねえ。ビックサプライズがあるから楽しみにねえ」

「え？何なんで《ガチャ》……す……か……」

（サプライズ？あのマネージャーの言う事ならろくな事じゃないんだろうなあ……）

それから服を着替えて朝食を作り食べ終わると8時45分を回っていた。

（そろそろか……）

マネージャーの言う『ビックサプライズ』が気にならない訳ではないがマネージャーに迷惑をかける訳にもいかず時間が来るのを待つ。

小さな約束

丁度9時

ピンポン

チャイムが鳴り響く。その音が聞こえると同時に玄関が開かれる。  
「カケルちゃんむつかえっにきったよ〜」

元気良く侵入してくるロリマネージャー 天羽 真由 玄関に  
いる謎の美少女。

「マネージャー・・・何時も言ってますよね？不法侵入はやめて下さいって・・・」

「ん？まあいいじゃん。気にしない気にしない」

「・・・それよりも、外に居るのは誰ですか？」

「んにゃ？」

マネージャーは、お菓子を頬張りながら・・・って

「何食べてるんですか！」

「お菓子？」

「そうじゃなくて！何で食べてるんですか！」

「いや〜、美味しそうだったからつい・・・」

少し照れた感じで頬を掻くマネージャー・・・

正直凄く可愛い・・・

「ん〜、そうそう彼女はうちの事務所の新人さん。今日からしばらくカケルちゃんの付き人をして勉強するから。よ・ろ・し・く〜」

「・・・いきなりすぎませんか？」

「ちよと伝えるの忘れてた。テへ」

可愛らしく舌を出して頭をコツンと叩いている。

「まあ、過ぎた事はいいでしょ〜。これから一緒にやっていくんだら。ほ〜ら挨拶、挨拶」

釈然としないものの挨拶は大事だと思っから外に出て挨拶をする。

「はじめまして。ボクは、天城 翔よろしく」

「・・・はじめましてじゃない」

「え？」

「カーくん、私の事忘れちゃったの？」

目に涙を浮かべながら聞いてくる美少女。どこかで見たことのある顔。どこか懐かしい顔。

\*イ\*ちゃん

まさか・・・

カ\*リちゃん

ありえない

カイリちゃん

「カイリちゃん？」

幼馴染の名前を口にした瞬間美少女が笑顔になる。

「思い出してくれたの！」

子供のころさんざん振り回された幼馴染。

「そう私は」そうこいつは

「くじょう九条 かいり海里！」「」

「な〜んだ、知り合いだったんだ〜」

とマネージャーがのんきなことを言う。

「ええ、幼馴染です」

「え〜、せっかく運命の再開をした恋人に対してそれは酷いよ〜」

また、ありもしない出鱈目を言っている。

「って言ってるけどどうなの？かけるくん？」

「冗談じゃない。ボクは、マネージャー一筋ですよ」

冗談ように言ってみた。

「ええ！？私？私もかけるくんのこと嫌いじゃないけどタレントとマネージャーはまずいよお」

凄く慌てているマネージャー。正直凄く可愛い。もっとからかいたい。

「マネージャー、ボクはマネージャーのためにならタレントを辞めても構いません。結婚してください」

「け、けけけ結婚！私もかけるくんのこと好きだけどお。かけるくんの夢を諦めさせたくないしい」

くくく

楽しい。何よりマネージャーが可愛い。でもさすがにこれ以上やるとマネージャーがかわいそうだ。

「マネージャー、冗談ですよ」

「にゃ？」

口を開きながら啞然としている。やっぱり可愛い。

「でも、マネージャーを好きなのは本当ですから」

その一言で真っ赤になるマネージャー。やっぱり結婚するならこんな人がいい。

「かけるくん。そういう冗談は感心しないな」

「そうだよカーくん！いつ何処で誰が聞いているか分からないんだよ！」

真っ赤になったマネージャーと今まで置いてきぼりにされていた海里が叫んだ。

確かに誰かに聞かれたら明日の新聞に『人気俳優・天城 翔マネージャーと熱愛！』なんて出かねない。

「ボクは、別にいいけどねえマネージャーのこと本気で好きだし」

「駄目なの！カーくんは私と結ばれるの！カーくんの恋人は私なの！カーくんは私だけのヒーローなの！」

覚えてた・・・

本当にあの約束を？

「何のことだ？」

「カーくんいつたもん！『じゃあ、カイリちゃんだけのヒーローになるよ！カイリちゃんだけを救うヒーローに！』って！」

「確かに言った。でも確かあの後カイリは『あなたに守られるなんてごめんよ』って言ってたよ」

「でも・・・」

「それになんかあのころと口調とかも全然違うし・・・」

「カーくんが好きだと思ったから頑張ったんだよ・・・」

「別に好きじゃないけど・・・」

「もういい、今カーくんが私の事を好きじゃなくてもいつか必ず振

## 小さな約束

り向かせてあげるんだから！」

「まあ、楽しみにしてるよ」

こうしてボクの日常に彼女が戻ってきた。

長い時間が過ぎていてボクは覚えていない事も多いけど・・・

また振り回される日常がやってくる。

疲れるけど最高に楽しい日常が

ボクはそれが少し楽しみだった。

(後書き)

何も考えてません。

続きも『読みたい!』って人がいたら書いてみたいともいます。

・・・駄文ですが・・・

# 広告募集中

小説関連広告に最適です。  
出版社や印刷会社はもちろん、  
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくは PDF 小説ネット広告募集をご覧ください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7019d/>

---

小さな約束

2009年3月24日11時23分発行